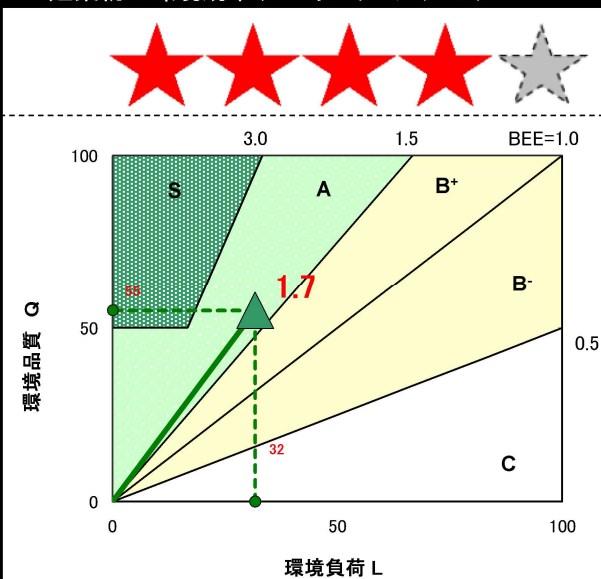


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	DOWAエコシステム(株)熊本事業所	階数	地上2階、地下0階		
建設地	熊本県宇城市松橋町萩尾字轟島21	構造	S造		
用途地域等	都計外(準都計外)	平均居住人員	50 人		
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	2,650 時間/年		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2025年6月30日		
敷地面積	101,526 m ²	作成者			
建築面積	7,511 m ²	確認日	2025年6月30日		
延床面積	8,893 m ²	確認者			

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

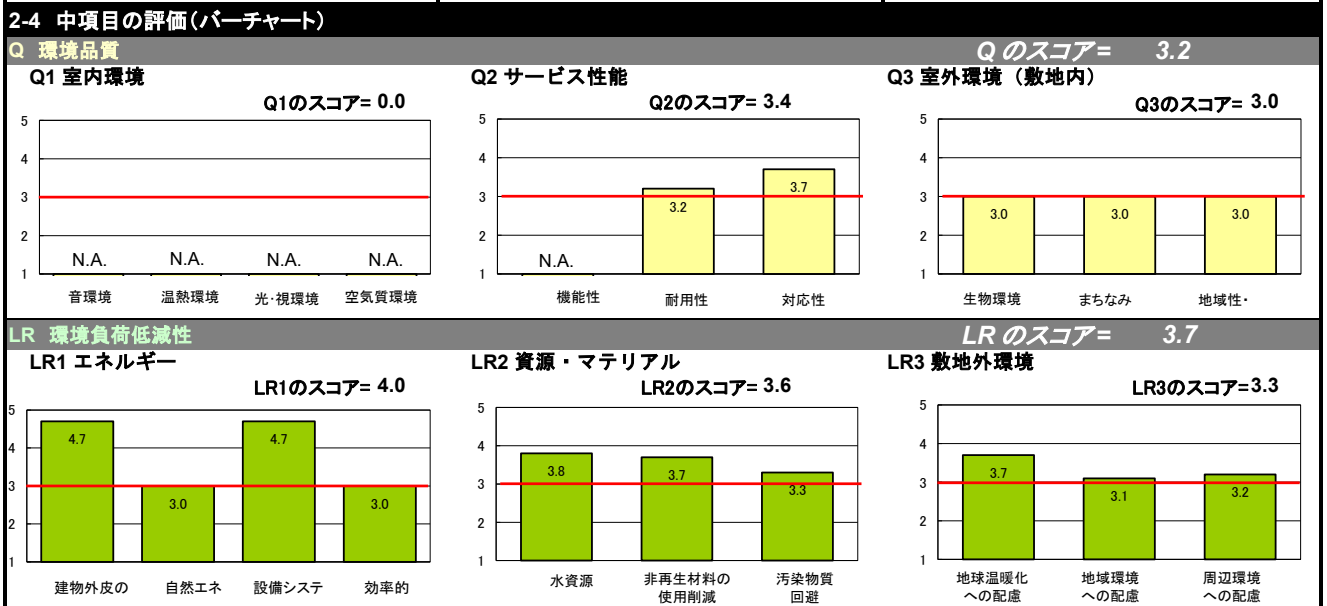
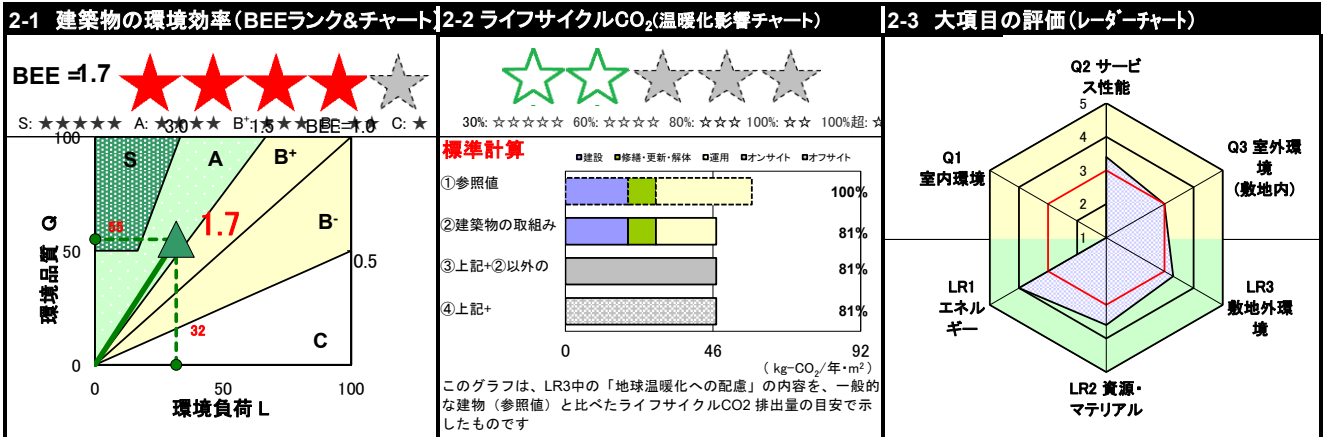
重点事項総合評価	評価点
	88

重点事項	評価点	熊本県重点評価基準
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	96.7	判定値(評価点)
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	75.0	ランク表示
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	80.0	100点以上
【重点事項4】 循環型社会の実現	92.2	80点以上100点未満
		60点以上80点未満
		40点以上60点未満
		40点未満

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	DOWAエコシステム(株)熊本事業所	階数	地上2階、地下0階
建設地	熊本県宇城市松橋町萩尾字轟島21	構造	S造
用途地域等	都計外(準都計外)	平均居住人員	50 人
省エネ・地域区分	7地域	年間使用時間	2,650 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2025年6月30日
敷地面積	101,526 m ²	作成者	
建築面積	7,511 m ²	確認日	2025年6月30日
延床面積	8,893 m ²	確認者	





■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO2の算定条件等については、「LCCO2算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質				評価点	重み係数	全体
Q1 室内環境				-	-	3.2
1 音環境				-	-	-
1.1 室内騒音レベル				-	-	-
1.2 遮音				-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	-
1.3 吸音				-	-	-
2 温熱環境				-	-	-
2.1 室温制御				-	-	-
1 室温				-	-	-
2 外皮性能				-	-	-
3 ゾーン別制御性				-	-	-
2.2 湿度制御				-	-	-
2.3 空調方式				-	-	-
3 光・視環境				-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-
1 昼光率				-	-	-
2 方位別開口				-	-	-
3 昼光利用設備				-	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-
1 昼光制御				-	-	-
3.3 照度				-	-	-
3.4 照明制御				-	-	-
4 空気質環境				-	-	-
4.1 発生源対策				-	-	-
1 化学汚染物質				-	-	-
4.2 換気				-	-	-
1 換気量				-	-	-
2 自然換気性能				-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-
4.3 運用管理				-	-	-
1 CO ₂ の監視				-	-	-
2 喫煙の制御				-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.43	3.4
1 機能性				-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-
1 広さ・収納性				-	-	-
2 高度情報通信設備対応				-	-	-
3 バリアフリー計画				-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-
1 広さ感・景観				-	-	-
2 リフレッシュスペース				-	-	-
3 内装計画				-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.2	0.50	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		ガルバニウム鋼板、鋼製パネル		5.0	0.20	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		石膏ボード		5.0	0.10	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-
2.4 信頼性				3.2	0.20	-
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備		節水型器具、配管系統の区分、井水利用		4.0	0.20	-
3 電気設備				3.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-

3 対応性・更新性			3.7	0.50	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高5.5m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.24	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		ラックによる配線	5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		ラックによる配線	5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		設備/バックアップスペースの確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.83	4.7	-	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] = 0.63	4.7	0.63	-	-	4.7
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		節水器具過半数採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		井水利用	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		天井仕上、床タイル、カーペット	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		金属サンドイッチパネル、LGS+ボード、OAフロア	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		排出率81%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		適切な駐車スペース、荷捌き用さや料の駐車スペース	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		ゴミ種・量の推計、分別回収スペース・ボックス、有価物回収	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		光害対策ガイドチェックリスト過半数を満たす	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	DOWAエコシステム(株)熊本事業所	

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		88	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点	
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				96.7	0.40	38.68	
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.00				
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00				
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.00				
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.7	0.00				
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.29				
LR1-3	設備システムの高効率化	4.7	0.43				
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.14				
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.14				
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				75	0.20	15.00	
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00				
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33				
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.20				
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.27				
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20				
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00	
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20				
LR2-1.1	節水	4.0	0.30				
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20				
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30				
④ 循環型社会の実現				92.2	0.20	18.44	
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30				
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30				
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10				
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15				
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15				

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。
※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	これはCASBEE熊本(2016年版)による評価結果です。 敷地内の既存緑地を残し、調和する緑地を設置する事で景観に配慮している。耐用年数の長い材料を使い耐用性の高い建物とし、予備スペースの確保や階高を高くし、ラックによる配線などにより設備の更新性を高めた建物としている。	
Q1 室内環境		
Q2 サービス性能	仕上げ材には更新必要間隔に配慮した部材を採用している。また、ラック配管や予備スペースの確保、階高にゆとりを持たせる事で設備更新性に配慮している。	
Q3 室外環境 (敷地内)	空地率を高め、敷地内の風を導き暑熱環境を緩和している。また、防犯カメラを設置する事で、防犯性に配慮した計画を行っている。	
LR1 エネルギー	高効率空調機を導入し、LED照明の採用する事で省エネルギー性能を高めている。 (設備システムの高効率化 BEIm=0.63)	
LR2 資源・マテリアル	躯体以外の材料にリサクル材を採用を計画し、工場用として井水を利用している。また、発泡剤にはODP=0、GWP=3の商品を採用し、汚染物質含有材料使用に配慮している。	
LR3 敷地外環境	適切な量な駐車スペースや荷捌き用車両のスペースを設け、交通負荷抑制に配慮している。また、光害対策ガイドチェックリスト過半数を満たしている。	
その他		